

aicBOOKS

海外投資実践マニュアル

HOW TO INVEST OVERSEAS / CHINA

中国

中国銀行／HSBC中国

サンプル版



海外投資を楽しむ会・編著

alternative investment club

サンプル版のご注意

本 PDF はサンプル版のため、目次と一部ページのみを抜粋して掲載しています。

【重要】

- 本書は海外の金融機関の一般的な口座開設方法や取引方法を解説したもので、その一例として具体的な金融機関を紹介しているが、これらの金融機関の利用を推奨するものではない。本書で紹介した金融機関と有限会社オルタ・インベスト・コム（以下、AIC）はなんの関係もなく、AIC は各金融機関の信用度を保証しない。口座開設はあくまでの各自の判断で行なっていただきたい。
- 本書に紹介された金融機関を利用したことから仮になんらかの損害が生じたとしても、その判断はあくまでも各自の自由な選択によるものであり、AIC はその損害に対していっさいの責任を負わない。
- 本書のデータは 2013 年 8 月現在のものであり、それ以降の変更に 대해서는各自で確認されたい。重要な変更については、海外投資を楽しむ会ホームページに随時アップする (<http://www.alt-invest.com/offshore/index.html>)。
- 海外投資を楽しむ会 <http://www.alt-invest.com>
- リンクが切れているなど、お気づきの点がありましたらご一報ください。 info@alt-invest.com

Introduction

不思議の国を体験しよう

本書では、中国の人民元口座を開設する方法を具体的に紹介しています。それは同時に、中国という“不思議の国”を体験することでもあります。

人民元は管理通貨で、金利や為替レートは中国政府によって厳しく規制され、外貨を人民元に両替することはできるものの、人民元を外貨に再両替することは事実上禁じられています。ここまで厳重に管理された通貨というのは珍しいのですが、その一方で中国政府は、ビザを持たない外国人旅行者が自由に銀行口座を開設することを認めています。

日本や欧米諸国などは金利や為替取引を自由化する一方、労働ビザなど居住証明を持たない外国人の銀行口座開設を制限しています。中国は“グローバルスタンダード”とまったく逆のことをやっており、そのおかげで(?) 私たちは、日本にいながらにして中国の金融システムにアクセスできるのです。

人民元投資の最初のブームは 2004 年で、人民元切り上げの時期は世界じゅうで大きな関心を集めていました。人民元は 97 年のアジア通貨危機以降 1 ドル ≒ 8.3 円で米ドルと固定されてきましたが、年率 10% 近い経済成長と大幅な貿易黒字によって近い将来の切り上げは不可避と考えられたからです。

2005 年 7 月、中国政府は通貨バスケットによる管理フロート制への移行を実施し、1 日 0.3% (現在は 1%) までの為替変動が許容されることになりました。この改革によって人民元は現在までに 25% 切り上がり、2013 年 8 月現在で 1 ドル ≒ 6.2 元になっています。

人民元は、“ノーリスクミドルリターン”の投資だと考えられています。米国が中国の為替管理を強く批判している以上、中国政府が人民元の切り下げを行なう可能性はゼロに近く、対米ドルでは損をする恐れはないからです。

とはいえ、本書は人民元で大きな資金を運用しようと考えている投資家のためのものではありません。少額で中国に銀行口座を開設し、「人民元を楽しもう」というのが私たちの提案です。

中国が世界第 2 位の経済大国になるにつれて、銀聯 (UnionPay) の決済システムが広く普及するようになりました。中国を旅行すると、Visa や Master などのグローバルなカードが使えず、銀聯しか受け付けない商店やレストランが増えていることに気づきます。そんなとき、人民元建ての銀聯 ATM カードを持っているととても便利です。

経済格差や環境破壊、不動産バブルなど、中国の前途に難問が山積していることは確かです。だがそれでも、この人口超大国が 21 世紀においても世界経済に大きな影響力を持つことは間違いありません。

さあ、あなたも最先端と伝統の混在する不思議の国の銀行を体験してみませんか？

海外投資を楽しむ会

Contents

Introduction 不思議の国を体験しよう.....	3
-------------------------------	---

Part 1 人民元投資 Q & A

Q ■人民元とはどのような通貨ですか？.....	16
Q ■人民元の取引にはどのような制限がありますか？.....	17
Q ■中国はなぜこのような極端な為替取引規制を行なっているのですか？.....	18
Q ■人民元の金利はどうなっていますか？.....	19
Q ■中国の「シャドーバンキング」とは何ですか？.....	19
Q ■中国の「理財商品」とは何ですか？.....	20
Q ■人民元に投資するにはどのような方法がありますか？.....	20
Q ■人民元を持つにはどうすればいいですか？.....	22
Q ■中国にはどのような銀行があるのですか？.....	22
Q ■中国株に投資するにはどうすればいいですか？.....	23
Q ■中国の A 株に投資するにはどうすればいいですか？.....	23
Q ■中国の不動産に投資するにはどうすればいいですか？.....	24

Part 2 人民元口座 Q & A

- Q ■ 人民元口座はどこで開設できますか？26
- Q ■ 人民元口座はどの銀行で開設するのがよいのでしょうか。26
- Q ■ 口座開設するなら、
国内銀行と外資系銀行のどちらがよいのでしょうか？27
- BOC と HSBC 中国のサービス比較
- Q ■ 上海と深圳とどちらで口座をつくればよいのでしょうか。28
- Q ■ 人民元はどの口座に預ければよいのでしょうか。29
- Q ■ 口座への入金はどうに行なえばよいのでしょうか？29
- Q ■ 外貨を中国に持ち込む際に気をつけることはありますか？30
- Q ■ 外貨を人民元に交換する場合、なにか制限はありますか？31
- Q ■ 日本から中国の金融機関に送金する場合、
なにか制限はありますか？31
- Q ■ 入金した人民元を外貨に交換することはできますか？31
- Q ■ 中国から人民元を持ち出す場合は、
どんな制限がありますか？32
- Q ■ 中国国内の金融機関から、
中国外に送金することは可能ですか？32
- Q ■ ATM カードを使って、
人民元預金を海外で引き出すことはできますか？32
- Q ■ 人民元預金の税金はどのようになっていますか？33
- Q ■ 人民元の煩雑な為替管理は
どの程度厳密に行なわれているのですか？33

● 人民元預金の基本

Part 3 中国銀行 Bank of China

1. 急速にグローバル化した中国系銀行.....36

2. 口座の種類と手数料.....39

■ 普通預金口座 Savings Accounts/Current All-in-One Account.....39

① 人民元預金 RMB Deposit.....39

② 外貨預金 Foreign Currency Deposit.....39

■ 定期預金口座 Time Deposit Accounts/Term All-In One Account.....40

(1) Lump-sum Term Deposit：一括定期預金

(2) Installment Fixed Deposit：積立定期預金

(3) Term Deposit with Regular Interest Withdrawal：利息分割支払定期預金

(4) Term-Current Optional Deposit：定期・普通オプション預金

(5) Call Deposit：通知預金

■ 外貨預金口座の種類と使い方.....42

① Cash / Bank-notes Account：現金口座.....43

② Remit / Exchange Account：送金口座.....43

■ 窓口での入出金のルール.....43

3. サービスの内容.....44

■ 支店窓口.....44

■ 通帳 Passbook.....44

■ ATM（デビット）カード.....45

■ インターネットバンキング.....46

■ テレフォンバンキング.....47

4. 口座開設手続きの流れ.....48

■上海で口座を開く.....48

■深圳で口座を開く.....49

■手続きの流れ.....50

①受付で番号カードを受け取る.....50

②申込書に記入する.....51

③手続カウンターで話をする.....53

- (1) 開設したい口座を伝える
- (2) 通帳用パスワードを設定する
- (3) ATM カードが欲しい旨を伝える
- (4) テレフォンバンキングの利用を申請する
- (5) インターネットバンキングを申請する

④入出金窓口で入金する.....56

■新規口座開設時の注意点.....57

■定期預金口座開設時の注意点.....57

■口座手続き完了後にすべきこと.....58

①デビットカード用 PIN の変更.....58

②インターネットバンキングの登録.....58

③通帳の管理.....58

■口座番号について.....58

■パスポート変更後の手続きについて.....59

5. 口座への入金・出金.....60

■口座の種類と入出金.....60

■ BOC への入金方法.....61

①支店窓口での現金入金.....61

(1) 人民元口座に入金する (2) 外貨口座に入金する

②支店窓口での外貨建てトラベラーズチェック入金.....62

③電信送金による入金.....63

④ BOC の両替手数料.....64

■ BOC からの出金方法.....65

①支店窓口での現金出金.....65

(1) 人民元で引き出す (2) 外貨で引き出す

② ATM を利用する.....65

③口座内で振り替える.....66

④インターネットバンキングで送金する.....66

⑤ BOC の送金手数料.....66

6. ATM とカードの使い方.....67

■ PIN の変更.....69

7. 通帳の見方.....70

■普通預金口座の通帳.....70

■定期預金口座の通帳	71
------------	----

8. インターネットバンキングの使い方

■トップページ（オープンサイト）	73
------------------	----

■セキュリティソフトのインストール	74
-------------------	----

■登録とログイン	75
----------	----

①ユーザー名とパスワードの登録	75
-----------------	----

②セルフ登録の方法	76
-----------	----

③2回目以降のログイン	78
-------------	----

■ログイン後のトップページ	78
---------------	----

①トップページのカスタマイズとナビゲーター機能	79
-------------------------	----

■口座管理	80
-------	----

①口座概要	80
-------	----

(1) 普通預金の残高照会と取引履歴確認	(2) 定期預金の詳細と残高確認
----------------------	------------------

■定期預金の解約と新規開設	83
---------------	----

①定期預金の解約	83
----------	----

②新規定期預金口座の開設	85
--------------	----

■振替・送金	87
--------	----

①BOC内の口座への送金	88
--------------	----

②中国国内のBOC以外の口座への送金	90
--------------------	----

③送金先情報の確認と送金	93
--------------	----

④取引限度額の変更	94
-----------	----

■ FX 取引	96
■ 登録情報、口座状況の確認	97
① 登録情報の確認	97
② パスワードの変更	97
■ 旧バージョンの使い方	98

9. 口座の閉鎖 100

Part 4 HSBC 中国

1. 対応は世界中同じグローバルバンク	102
2. 口座の種類と手数料	104
■ アドバンス口座とプレミア口座	104
■ 口座の種類	105
① 人民元口座 Renminbi Deposits	105
(1) Settlement Account (CNY CA1)：決済口座（普通預金口座）	
(2) Cequeig Account (CNY CU1)：当座口座	
(3) CNY Call Deposits：人民元通知預金口座	
(4) CNY Call Deposit Plus：人民元通知預金プラス口座	
(5) CNY Time Deposit Account：人民元定期預金口座	
② 外貨預金口座 Foreign Currency Deposits Account	106
(1) Multi-Currency Account：普通預金口座（マルチカレンシー口座）	
a) Notes Account (FCY MS1)：現金口座	b) Exchange Account (FCY MSV)：送金口座
(2) Call Deposits：通知預金口座	

- (3) Call Deposits Plus：通知預金プラス口座
- (4) Time Deposit Accounts：外貨定期預金口座

3. サービスの内容.....109

- 支店窓口.....109
- ATM（デビット）カード.....110
- インターネットバンキング.....111
- テレフォンバンキング.....112
- ステイトメント.....112

4. 口座開設手続きの流れ.....113

- 口座開設必要書類と事前準備.....113
- 上海・深圳の支店情報.....113
- 手続きの流れ.....116
- 口座開設申込書の記入方法.....117
 - ① Sole Account Opening Form (単独名義口座開設申込書) の記入方法.....117
 - ② Personal Customer Phonebanking Application Form
(個人用テレフォンバンキング申込書) の記入方法.....125
 - ③ Joint Account Opening Form (共同名義口座開設申込書) の記入方法.....127
- 口座開設後にその場ですべきこと.....131
 - ①テレフォンバンキング番号と PIN の確認.....131
 - ②ATM カードの PIN の変更手続き.....131
 - ③現金での入金.....132

■ その他の口座の開き方	132
① 定期預金口座の開き方	132
② マルチカレンシー口座内の通貨口座の開き方	133
■ Premier への移行方法	133
① HSBC Premier Service Conversion Form (プレミア口座サービス切替書) の 記入方法	133
■ 口座を維持するための注意点	136

5. 口座への入金・出金 139

■ 口座の種類と入出金	139
■ HSBC 中国への入金方法	140
① 支店窓口での現金入金	140
(1) 人民元を入金する (2) 外貨を入金する	
② 支店窓口での小切手・トラベラーズチェック入金	141
③ 電信送金による入金	142
■ HSBC 中国からの出金方法	144
① 支店窓口での現金出金	144
(1) 人民元で引き出す (2) 外貨で引き出す	
② ATM を利用する	145
③ インターネットバンキングで資金移動	145
④ 電信送金による出金 (外貨のみ)	145

6. ATM とカードの使い方.....147

■ ATM の使い方.....148

①現金の引出し Cash Withdrawal.....149

② 口座間振替・振込 Fund Transfer.....150

③ PIN の変更 Change PIN.....150

■ カードの利用手数料.....151

7. インターネットバンキングの使い方.....152

■ インターネットバンキングでできること、できないこと.....152

■ 送金に関する注意点.....153

■ ログインに必要なもの.....156

■ オープンサイト.....156

■ 登録とログイン.....158

①ユーザー名とパスワードの登録.....158

② 2 回目以降のログオン.....162

■ ログイン後のトップページ.....165

■ 口座管理.....166

①口座概要 Account Summary.....167

②総資産額 Net Worth Statement.....168

③取引履歴照会 Account History.....168

■振替・送金	169
① HSBC 中国内の口座間振替	170
② HSBC 中国内の他口座への振込	172
③ 中国国内の HSBC 中国以外の口座への振込	173
④ 海外の銀行への送金	174
⑤ 送金履歴の確認	174
■定期預金の開設と変更	175
① 定期預金口座の開設	175
② 定期預金の満期時指示の変更	176
■外貨／人民元の両替	178
■レート照会	180
① 預金金利（利息）照会	180
② 為替レート照会	181
■その他サービス	181
■電子ステイトメントの依頼	183
■外貨口座の追加開設	184
 8. テレフォンバンキングの利用方法	 185
 9. 口座の閉鎖	 187

Part 1

人民幣投資 Q&A

Q ■ 人民元とはどのような通貨ですか？

A ■ 人民元 Renminbi は中国人民銀行が発行する通貨で、略号は RMB あるいは CNY (Chinese Yuen)。元 (ユエン／クアイ)、角 (ジャオ／マオ)、分 (フェン) があり、1 元 = 10 角 = 100 分です。

紙幣・硬貨ともに、現在流通しているのは建国 50 周年を記念して 1999 年 10 月に発行された第 5 版 (2005 年 8 月 31 日より第 5 版改訂版) で、紙幣は 100 元、50 元、20 元、10 元、5 元、1 元の 6 種類、どれも毛沢東の同じ肖像が使われています。

硬貨は 1 元、5 角、1 角、5 分、2 分、1 分の 6 種類で、1 元、5 角、1 角には 2 種類のデザインがあります。また 1987 年に発行された第 4 版のうち、5 角、2 角、1 角の少額紙幣も流通しています (第 4 版の高額紙幣を目にすることは稀です)。

1949 年の中華人民共和国成立後、人民元は長らく固定相場制で管理されていましたが、72 年の対米国交正常化を機に通貨バスケット制に移行しました。その公定レートは当初は大幅に割高で、そのため 1980 年代の改革開放の時代には、公定レートのほかに貿易決済用の内部調整レート (後に外国為替調整レート) を別に定める二重相場制が採用されていました。81 年時点では 1 米ドル = 1.704 元だった公定レートは、調整レートに引きずられるかたちで徐々に引き下げられ、94 年 1 月に公定レートと調整レートが一本化され、管理変動相場制に移行する際に 1 米ドル = 8.7 元となりました。

その後、97 年のアジア通貨危機を受けて政策的な切り上げが行なわれ、1 米ドル = 8.2765 円で米ドルに固定 (ペッグ) されました。しかしアメリカが対中貿易赤字の増加に不満を募らせたことで、「為替操作国」の指定を避けるため、2005 年 7 月 21 日に通貨バスケットによる管理フロート制へ移行。これにより人民元は 1 米ドル = 8.11 元へと約 2% 切り上げられ、また 1 日 0.3% (後に 0.5% に拡大) までの変動が許容された結果、人民元は約 3 年間で 20% 程度増価しました。

ところが 2008 年 9 月のリーマンショックで通貨防衛の必要に迫られた中国政府は、人民元と米ドルをふたたびペッグ (固定) させ、欧米諸国の景気低迷が長引くにつれ、人民元は割安との強い批判が再度アメリカなどから起こるようになりました。それを受けて中国人民銀行は、2010 年 6 月 19 日に人民元の弾力化と、ドルペッグ以前の通貨バスケット制への復帰を表明し、1 日の変動幅は現在 1% まで拡大されています (1.5% への拡大も議論されています)。人民元の為替レートは 2013 年 8 月現在、1 米ドル = 6.12 元まで上昇しています。

Q ■人民元の取引にはどのような制限がありますか？

A ■ 中国政府は、人民元を貿易などの経常取引（実需取引）と、為替投機や株式投資などの資本取引に分けて管理しています。

国家外国為替管理局は中国人民銀行の直属機関で、国内で流通する外貨のほとんどを企業などから買い取っています（外貨集中制）。また個人の外貨保有や持ち出しなども厳しく制限されています。

経常取引に関しては、1996 年の IMF8 条国加盟をもって自由化が完了したとされています。現在では、外国企業が中国への輸出で受け取った人民元を外貨に交換することも、中国国内企業が輸出代金を外貨で受け取ることもできますが、こうした為替取引も中国政府に一本化されており、外貨準備高が 3 兆 5000 億ドル（350 兆円）近くまで膨れ上がったのです。

その一方で実需の伴わない資本取引は原則禁止で、あらゆる取引に外貨管理局の許認可と監査が必要とされ、外国人投資家による人民元建ての株式投資も原則として認められていません。

外国人が中国に会社法人を設立して事業を行なうことや、不動産などの資産に投資をすることは可能ですが、煩瑣な手続きが求められるためここでは触れません。

中国国内の銀行で個人が外貨と人民元を交換する際の規制には、次のようなものがあります。

(1) 20,000 元規制

- 1 人 20,000 元を超える人民元の持ち出しは禁止。

(2) 5,000 ドル規制

- 5,000 米ドル相当超の外貨の持ち込みは税関での申告が必要。
- 5,000 米ドル相当超の外貨の持ち出しは、預け入れ銀行の外貨持出許可証が必要。
- 個人が 1 日 5,000 米ドル相当超の外貨を現金で外貨預金口座に預け入れる場合は、身分証明書と税関の印章のある申請書もしくは本人が預けていた銀行の現金引出証明が必要。

(3) 10,000 ドル規制

- 10,000 米ドル相当超の外貨の持ち出しには、外貨管理局と銀行の許可証が必要。
- 外貨（現金）から人民元への両替は、1 人 1 回につき 10,000 米ドル相当以下なら手続きは不要。それを超える場合は外貨管理局の許可が必要。

●外国人が個人の外貨口座から現金を引き出すことは、1人1日につき10,000米ドル相当未満なら本人の身分証明書のみで可能。それを超える場合は、本人の身分証明書と関連証明書類を外貨管理局に事前に提出する必要がある。

●個人が外貨を国外に送金する場合、送金金額が10,000米ドル相当以下なら本人の身分証明書を提示して銀行窓口で可能。それを超える場合は、身分証明書のほかに入国時の外貨所持申告証明や預けていた銀行の現金引出証明が必要。

(4) 50,000 ドル規制

●個人の外貨から人民元への両替は、1人につき年間50,000米ドルが上限。それを超える場合は、原則として外貨管理局の審査許可が必要（人民元から外貨への再両替は原則として不可）。

こうした複雑な規制に対応するために、中国の金融機関は外貨取引専用の国外口座と、国内取引用の国内口座を使い分けています。具体的には、同じ米ドル口座でも米ドル国外口座と米ドル国内口座があり、両者の間で資金移動はできません。米ドルの現金を窓口で入出金できるのは米ドル国内口座のみです。このため通常、国内口座は「現金口座 Notes Account / Cash Account」、国外口座は「送金口座 Exchange Account / Remit Account」と呼ばれています。

Q ■中国はなぜこのような極端な為替取引規制を行なっているのですか？

A ■ 経済学者のロバート・マンデルとジョン・マーカス・フレミングが導き出した「マンデル・フレミングモデル」では、いかなる条件でも以下の3つの政策を同時に実現することはできないとされています。

- ① 為替の安定（固定相場制）
- ② 独立した金融政策（中央銀行の金利操作）
- ③ 自由な資本移動

これが「国際金融のトリレンマ」で、アメリカや日本のような先進諸国は②と③を選択して為替を変動相場制にしています。EU加盟国は①（共通通貨ユーロ）と③を選択し、金融政策を欧州中央銀行（ECB）

に任せています（ただしそれぞれの国が自由に国債を発行できるという矛盾があり、それがユーロ危機につながりました）。中国の場合は①と②を選択したことで、必然的に、自由な資本移動を犠牲にせざるを得ないのです。

中国で行なわれている煩雑な為替取引規制は、人民元レートを政府の管理下に置くためのものです。「中国の経済規模を考えればもはや硬直的な為替管理政策は不要で、逆に金融市場を歪めるだけだ」という批判も強くありますが、1997年のアジア通貨危機で通貨の暴落が権力の交代を引き起こした現実を見た中国政府＝共産党は、人民元の価値を市場に委ねる決断はまだできないようです。

Q ■人民元の金利はどうなっていますか？

A ■ 人民元の金利指標としては、中国人民銀行が決定する公定歩合と基準金利があります。公定歩合は中央銀行が銀行に資金を貸し出す際の金利ですが、日本や欧米諸国では中央銀行が市場操作によって誘導した金利（日本では無担保コール翌日物金利、アメリカではFF金利）が重要になっています。中国でこれにあたるのが基準金利で、一般銀行が人民元の融資や預金に適応する金利ですが、これは金利市場で決まるのではなく人民銀行＝中国政府が決定権を持っています。

2013年8月現在の基準金利（1年もの）は預金が3%、貸出が6%で、これまでは預金金利の上限を基準金利の1.1倍（3.3%）、貸出金利の下限を基準金利の0.7倍（4.2%）としていました。すべての銀行がこの規制に従わなくてはならないため、中国の銀行は最悪でも年利3.3%で集めた預金を4.2%で貸し出すことができます。

これによって金融機関は、預金を国有企業（央企）などの優良企業に融資するだけで0.9%超の利益を確保できることになります。これは銀行を過剰に保護するもので、リスクをとって民間に融資するインセンティブがなくなるという批判を受けて、2013年7月20日に貸出金利の下限規制が撤廃されました（預金金利の上限金利は維持されています）。

Q ■中国の「シャドーバンキング」とは何ですか？

A ■ 金利規制の大きな問題は、預金金利がインフレ率を下回ってしまうということです。2011年の預金基準金利は3.5%まで上がりましたが、このときのインフレ率は5%でした。日本のゼロ金利を考えれば年利3.5%はずっとマシだと思いかもしれませんが、物価が年率5%で上がっ

ているのですから、中国のひとびとからすれば実質金利はマイナス 1.5% で、銀行に貯金しても損するだけという理不尽なことになっています。

その一方で、銀行間の競争がなく利ざやが保証されている中国の銀行は、資金回収が確実な大企業や国有企業にお金を貸していればいいのですから、リスクのある融資をする理由がありません。しかしこれでは、ベンチャー企業や中小企業のようなハイリスクな融資先は金融システムから排除されてしまいます。

そこで、民間から銀行預金よりも高い金利でお金を預かり、こうしたハイリスク企業に高利で融資するビジネスが急速に拡大しました。これがシャドーバンキング（闇銀行）で、一時、その存在感は表の銀行システムを脅かすまでになったのです。

Q ■中国の「理財商品」とは何ですか？

A ■ 民間のシャドーバンキングは政府の管理下になく、金融システムの重大な脅威になりますから、けっきょくは厳しい取締りによってほとんど消滅してしまいました。とはいえ、闇銀行が担ってきた融資機能は市場には必要不可欠です。

その結果、表の銀行が闇銀行を取り込んでしまうという奇妙なことが起きました。

闇銀行が一掃されるのと、「理財商品」と呼ばれる高金利のファンド（のようなもの）を中国の銀行が我先に販売し始めるのはほぼ同じ時期です。理財商品の仕組みは闇銀行と同じで、高い金利（年利 5 ～ 10%）でお金を集め、それを中小企業などに融資したのです（その後、融資先は地方政府の不動産開発事業にシフトしていきます）。

現在、このシャドーバンキングに世界の注目が集まっているのは、その規模があまりにも大きくなったためです。

Q ■人民元に投資するにはどのような方法がありますか？

A ■ これまで人民元に投資する方法は、中国国内で人民元口座を開設し、預金するしかありませんでしたが、2010 年になって中国銀行 Bank of China（以下 BOC と表記）在日支店が人民元預金のサービスを開始しました。

中国銀行在日支店は、日本国内に人民元口座を開設するため、中国の為替規制にかかわらず預入金額の上限はありません（50,000 元を超える金額は事前に電話での確認が必要）。

▶ BOC 東京支店 http://www.boctokyo.co.jp/index_jp.html

また 2012 年 8 月からは、HSBC 香港など香港内の銀行でも非居住者が人民元口座を開くことができるようになりました。

日本、香港、中国国内の人民元口座の違いを簡単にまとめておきます。

＜日本国内口座（BOC 在日支店）＞

- ・ 日本円（外貨）から人民元への両替の上限がない。
- ・ 人民元から日本円（外貨）への再両替にも規制はない。
- ・ 人民元預金を、中国国内で引き出すことはできない（人民元建ての ATM カードは発行されない）。
- ・ 預金金利は、中国国内の基準金利よりも低くなる。

＜香港内口座（HSBC 香港）＞

- ・ 外貨から人民元への両替の上限はない。
- ・ 人民元から香港ドルへの両替は 1 日 20,000 元まで可能。
- ・ 人民元普通預金から人民元のまま香港内での出金が可能（一部 ATM でも可）。
- ・ 中国の人民元口座への送金も可能（ただし受取側の金融機関で拒否される場合もある）。
- ・ 預金金利は、中国国内の基準金利よりも低くなる。

＜中国国内口座（HSBC 中国）＞

- ・ 日本円（外貨）から人民元への両替は 1 年間に 50,000 米ドル相当まで。
- ・ 人民元から日本円（外貨）への再両替は不可。
- ・ 人民元普通預金から中国国内での出金や送金が可能（人民元建ての ATM ＜デビット＞カードが発行される）。
- ・ 預金金利は、中国国内の基準金利が適用される。

国内口座と国外口座は一長一短があり条件もかなり異なるので、興味のある方は事前によく研究してみてください。

Q ■ 人民元を持つにはどうすればいいですか？

A ■ 現時点でもっとも簡単なのは、BOC 在日支店で人民元預金（普通預金、定期預金）をすることでしょう。デメリットは、現地で直接口座を開設するのに比べて預金金利が低く抑えられていることと、ATM カードが発行されないことです。

中国に旅行する機会があるのなら、現地で銀行口座を開設することが可能です。その場で ATM カードが発行され、インターネットバンキングの設定ができ、さらに 1 元から口座開設可能です（BOC の場合）。本書では、その方法を解説しています。

Q ■ 中国にはどのような銀行があるのですか？

A ■ 社会主義経済を採用していた中国では、金融機関は中国人民銀行一行しかありませんでした。1980 年代の銀行改革で、中国人民銀行から中央銀行以外の業務が分離され、中国銀行（外貨取引業務）、中国建設銀行（建設関連融資）、中国農業銀行（農業関連融資）、中国工商银行（商業銀行業務）が生まれました。これが「四大国有商業銀行」で、中国の全金融取引の 6 割を占めるなど、きわめて大きな影響力を持っています。

地域ごとの株式制銀行も 80 年代から認可されるようになりました。交通銀行、上海浦東発展銀行、中信銀行、招商銀行、中国民生銀行などが株式市場に上場していますが、大半は地方政府や国有企業の所有です。

国有商銀や株式制商業銀行以外では、都市レベルで業務を行なう城市銀行、日本の信用金庫や信用組合にあたる都市信用合作社、農協系金融機関にあたる農村信用合作社などがあります。

外資系金融機関の参入規制は依然として厳しいものの、HSBC やシティバンクなどのグローバル金融機関も、上海などの主要都市でリテール業務を開始しました。

私たち日本人が中国国内で銀行口座を開設する場合は、国有商銀のなかで外為業務を専門にする中国銀行か、外資系銀行のなかでもっとも広く支店網を展開する HSBC 中国を利用するのが現実的です。

Q ■中国株に投資するにはどうすればいいですか？

A ■ 中国では上海と深圳に株式市場があり、人民元建ての A 株と外貨建ての B 株が売買されています（上海 B 株は米ドル建て、深圳 B 株は香港ドル建て）。外国人投資家は、原則として B 株への投資しか認められていません。B 株を発行するのは上場企業の約 1 割なので、残り 9 割の企業には外国人は投資できないということになります。

香港市場には、H 株やレッドチップスと呼ばれる中国系企業の株式が上場されています。H 株は、資金調達のため香港市場に上場した企業の株式で、レッドチップスは、同じ中国企業でも香港に子会社（窓口会社）をつくって株式市場に上場させたものです。これら H 株やレッドチップスは優良銘柄が多く、また流動性も高いのため、日本で「中国株」という場合、これらの香港上場株を指すこともあります。また数は多くありませんが、チャイナテレコムやチャイナモバイル、ペトロチャイナなど、ニューヨーク市場に上場している中国系企業もあります。

香港上場株は、日本の証券会社を通じてでも売買できますが、香港の証券会社に口座をつくったほうが手数料は安くなります。香港は銀行と証券の垣根がないので、HSBC 香港やシティバンク香港などの投資口座でも香港上場株のインターネット取引ができます。KGI 証券や BOOM 証券など香港のネット証券では、上海・深圳 B 株のインターネット取引が可能です。

なお外国人が A 株に投資する場合は、次に述べる QFII（適格外国機関投資家）が組成したファンドか ETF を利用することになります。

Q ■中国の A 株に投資するにはどうすればいいですか？

A ■ 日本の金融機関でも中国株に投資するファンドが販売されていますが、そのほとんどは香港市場に上場された H 株やレッドチップスを組み込んだものです。

2002 年から、QFII（適格外国機関投資家）として認可された一部の外資系証券会社に A 株投資が認められるようになりました。そのほとんどは機関投資家向けの取引ですが、一部には人民元建てのファンドを売り出す動きも出てきました。

また香港市場には A50 指数（A 株主要 50 銘柄）や CSI300 指数（A 株主要 300 銘柄）の株価インデックスを証券化した ETF が上場されています。

- iSharesFTSE/XinhuaA50ChinaIndexETF（Stockcode：2823）
- W.I.S.E.-CSI300ChinaTracker（Stockcode：2827）

さらには、東証や大証にも中国株に連動した ETF が上場されています。

Q ■中国の不動産に投資するにはどうすればいいですか？

A ■ 中国では外国人にも不動産の購入が可能です。ただし、土地はすべて国有なので、50 ～ 70 年の借地権付き建物を売買することになります。

本書では不動産投資を扱いませんが、上海には英語や日本語で取引できる外国人向けの不動産業者がたくさんあるので、興味のある方は各自で問い合わせてください。

上海で投資用不動産を購入する場合は、外国人向けの 2LDK、3LDK クラスの物件が中心で、価格帯も 5,000 万～1 億円と東京と変わりません。外資系銀行であれば、米ドル建ての融資も受けられるとのこと。